

平成 29 年 10 月 13 日

6 年生保護者 様

玉城町立下外城田小学校

## 平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果について

4 月 18 日に実施した全国学力・学習状況調査につきまして、本校 6 年生の結果分析をまとめました。本結果を今後の教育活動の指針の一つとして、成果は継続して伸長し、課題については改善に向けた取り組みを進めてまいります。ご家庭でも参考にいただければと思います。

### 国語

#### ① A 問題（主として知識に関する問題）

出題内容は、案内文内の漢字の読み書き・報告内容や資料の読取・手紙の形式やことわざの意味・俳句とそれについての話し合いの内容理解を問う内容でした。

全国平均を若干下回る正答率でした。

- 文章内容の読取
- △ 俳句の内容理解
- △ 手紙の形式理解
- 音読の仕方の理解
- パンフレット中の漢字の読み書き
- ことわざ

#### 《今後》

漢字の読み書きについては、高い正答率でした。しかし、「参加たいしょう」の「対象」の正答が大変少なく、同音異義の漢字選択が苦手な様子があります。文章の読み取りは、高い正答率があり、確実に文の内容を理解することができていました。正しい音読の仕方やことわざも理解できていました。伝え合うことを重視した国語科の学習や日常の読書活動を継続させていきます。

俳句の特徴や良さを読み取る問題は正答率が低く、俳句に親しむ機会や特徴を学びそれを使う学習活動を大切にしていける必要があります。

#### ② B 問題（主として活用に関する問題）

出題内容は、(1)スピーチを行うためのメモ・練習・話し合い文の内容理解と条件に合った話の文章表現 (2)パンフレット内容の理解、アドバイスに沿った文への書き換え (3)物語とそれについての話し合い文を読み取って内容を理解する、話し合っている人になりその人の理解に沿って条件に合わせて発言内容を文章表現するといった問題でした。

全体的に全国平均を大きく上回る非常に高い正答率でした。

- 読み取った内容をもとに数個の解答から正答を選択する。

- 読み取った内容をもとにして与えられた条件に沿った文を考えて表現する。

《今後》

国語Bにおいては、記述式の問題が多く、また何を答えるかの問いの記述までの前段の文が大変長く、回答が困難な内容です。また、文章表現をする上での条件が与えられていることもあり、それに合わせて文を書くことも回答を困難にしています。難しくてもあきらめず、根気強く読み取り表現していく姿勢を養っていく必要があります。その意味から、無回答の割合が大変低く、子ども達のがんばりがうかがえました。今後も、挑戦することの大切さを伝えながら、いろいろな種類の文の読解経験を積み、学力として求められる力をつけていきたいと考えます。

算数

① A問題（主として知識に関する問題）

出題内容は、倍の意味理解や四則計算、最小公倍数、□を使った式の立式を求める問題がありました。また、2つの量の比べ方や同じ高さの三角形と平行四辺形の面積の関係、正五角形内の角度、立方体の展開図理解を問う問題がありました。さらに、資料から複雑な表に数値を書き入れて完成させることを求める問題がありました。

全体的に全国平均を若干ですが上回る正答率でした。

- 倍の意味理解
- △ 四則計算、特に割り算の商を分数で表す計算の理解
- □を使った式の理解
- 資料から表を完成させること

《今後》

計算の意味理解や技能については正答率として低くはありませんでしたが、全国平均との比較では不確実性が見られます。ドリル学習はもちろんですが、計算の意味理解をしっかりと押さえていく学習が必要です。

表や□を使った式の理解ができていることは、めあてと振り返りをしっかり押さえる、その中で一人一人の考えを基にした話し合い活動を充実させる等の授業の成果であると考え、今後も継続していきます。

② B問題（主として活用に関する問題）

出題内容は1から9までのカードを並べて、条件をクリアする式の規則性を見つけ出す問題、送る物の大小による送料の違いから条件に合った送り方を考え出す問題がありました。また、単位が異なる数値から平均を求めること、指定された条件を使って平均を求める方法を説明する、人数調べの結果の表を完成させると共に数種類に表されているグラフの中から条件に合ったものを選択する問題がありました。さらに最大と最小の満月の直径比較で差が14%の表記を基に大きさの感覚を問う問題の特徴を説明する問題がありました。全体的には、計算することより条件に合った解決方法

を的確に説明することに重点を置いた問題が目立ちました。

全体的に全国平均を上回る正答率でした。

- 指示された計算の決まりや適切な送料の求め方の数値や式を使った説明
- 割合から描く大きさのイメージ感覚
- △ 与えられた条件をクリアする的確なグラフ選択

## 《今後》

4つの学力調査の中で最も平均正答率が低いのが算数日問題です。これは全国的な傾向となっています。本校でもその傾向ですが、全国平均と比べて大きく正答率が大きく下回る問題はありませんでした。問題傾向として条件に合った問題の解き方を的確に説明することがあります。根気強く考えて回答している様子がうかがえます。日々の授業の中で考えを文章表現して意見として説明する活動が生きていると考えます。それを継続していきます。

## 学習状況（児童質問用紙）

### （1）良好なこと

- ① 自分を肯定すること。
- ② 友だちの考えを受け止めて自分の考えを持つこと。
- ③ 将来の夢や希望を持っていること。
- ④ 授業で学んだことを他の学習や生活に活かしていること。
- ⑤ 家の人と将来のことについて話すこと。
- ⑥ 家で学校の宿題をすること。
- ⑦ 学校に行くのが楽しい。
- ⑧ 学級のみならず協力して何かをやり遂げうれしかったことがあること。
- ⑨ 先生が理解していないところを分かるまで教えてくれること。
- ⑩ 自分が住んでいる地域の行事に参加すること。
- ⑪ 地域や社会で起こっている問題や出来事に感心がある。
- ⑫ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。
- ⑬ 困っている人を助ける、いじめはどんな理由があってもいけない、人の役に立ちたい。
- ⑭ 授業で課題に対して自ら考え解決に向かって取り組んでいく活動する。
- ⑮ 授業で、めあてと振り返りを大切にしている、また、めあて・振り返りをノートに書いている。
- ⑯ 道徳の時間に自分の考えを深めたりグループで話し合ったりする活動を行っている。
- ⑰ 国語で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
- ⑱ 算数の新しい問題を解いてみたい、難しくてもあきらめず解き方を考える。
- ⑲ 算数の授業で学習したことを普段の生活に活用できないか考える。

### （2）課題と考えられること

- ① テレビ・ビデオ・ゲームの見たり聞いたりする時間。

- ② 携帯電話・スマホでメールやインターネット利用をする時間。
- ③ 家庭学習や休日の学習（塾を含む）時間。
- ④ 授業の予習をする時間。
- ⑤ 自分で計画を立てて勉強すること。
- ⑥ 新聞を読んでいる。

#### 実践状況（学校質問用紙）

##### （１）良好なこと

- ① 授業に、めあてや振り返りの活動を取り入れている。
- ② 学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れることに力を入れている。
- ③ 算数の授業においてティームティーチングの指導を行っている。
- ④ 地域の人材を外部講師として招いて授業を行っている。
- ⑤ 学習規律（私語をしない・話し手の方を向いて聞く・チャイムを守る）の維持を徹底する。

##### （２）課題と考えられること

- ① 算数以外でのコンピュータ等の情報通信機器を活用する機会が少ない。
- ② 家庭学習について十分に共通理解を図ることができていない。
- ③ 算数以外でＴＴによる指導ができていない。
- ④ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる授業を行う。

#### 《学習状況と実践状況を踏まえて》

これまでと異なる傾向にあるのは、子ども達の「自己肯定感」「将来の夢や希望」を肯定する回答率が増したことです。これは、学校においては、運動会や文化祭等の大きな行事をやり遂げた、また学級において目標に向かって集団で力を合わせた等の取組が好影響をもたらしていることが考えられます。ご家庭においてもお子様を認める・励ます等の褒めること支えることの日々の子育ての成果でもあると考えます。

課題となっている「テレビ・ゲーム・スマホ・パソコンの使用時間」「家庭学習時間」は、すぐには解決策を見い出せない状況です。しかし、スマホ等のインターネット利用の遊びについては、ご家庭においてははっきりしたルールを設けて確実に守らせる等の取組が必要です。学力以前に犯罪被害に遭わない・加害者にならないといった自分の安全を守る意味からも大切なことと考えます。